

各地区の取り組み共有と次年度へ向けた検討

★平成31年3月14日

人口透析予防に向けた地域・医療連携のための学習会（報告会）

国保連合会では、平成22年度からCKD予防活動の事業を展開しており、事業の一環として、3月14日、本会主催のもと、「人工透析予防に向けた地域・医療連携のための学習会」の報告会が水前寺共済会館グレースシアで行われ、県内10地区の代表者（保健師等）25人と各地区を担当する医師8人が出席した。

本会では、熊本県における最も重要な健康課題のひとつである人工透析の予防を目指して、ライフサイクルにおける活動の中で、CKD（慢性腎臓病）予防を考え実践することを目的とした学習会を県内10地区において開催しており、各地区での取り組み状況の共有と地域・医療連携についての検討を目的に本報告会を開催した。

報告によると、「地区の課題に応じた学習企画と関係者との連携」、「多職種を交えた事例検討やグループワークの実施」という学習会の目標は、全ての地区で達成されており、特に、関係者との連携の点では、地元医師や歯科医師、看護師をはじめ、薬剤師、検査技師、社会福祉士、また、透析室の臨床工学技士など、CKD患者を取り巻く様々な職種の参加があり、地域でのCKD予防活動の輪の広がりが感じられた。

協議事項では、CKD診療ガイドラインの平成30年度の改訂を受け、対象者の把握や保健指導の優先順位の考え方について検討した。各医師からは、「対象者把握にあたっては、尿蛋白定量検査による判断が望ましい」、「経年で評価し、腎機能が低下している者は保健指導の優先順位が高い。」等の助言があり、平成31年度の取り組みに各保険者が活かしていくことになった。

平成31年度から、国が、CKDを早期に発見・診断し、重症化予防や治療につなげることを目的に、かかりつけ医と腎臓専門医が連携する「CKD診療連携構築モデル事業」を開始することから、人工透析の課題が大きい本県でも継続してCKD予防に取り組む必要があり、今後も学習会を通じた関係者との連携や保健指導のスキルアップが期待される。



【問合せ先】

保健事業支援課 保健事業係

TEL : 096-365-0976